





詠諧埋木目錄

李吟撰

詠諧之變

六義

發句之切字

卒奇之發句

振才三句句八句者議之表

詠言及想之念之句

五示於義

常言亦出之此語

皮肉骨之此語

真草乃乃之此語

有文乃白作之文之白作

二又三又二四二

親白疎白

篇序題世流

个解

此借字亦與義抄之漢書之此語也
情語也滑之妙者也替詞不也史記滑
勢語考相云滑替酒也言古以公章
詞不窮猶若滑替酒也

傳六

大史公曰天道恢恢豈不以諛言微言亦
可以解紛 傳蓋多矣常以諛言微言
猶若力嘆之能合於大道滑于能滑變多
各部舍人發言陳辭雖只合大道統令人
自和悅 是言滑替大定也
此語乃也

乃よ、いぢるるやうなる記をよとて、
世集乃心を史とて、
とよ名をいふと、
平乃あしきも、
宗祇云、
けいふの事、
よ人のあはれ事、
しとて、
乃此道、
清徳傳

息あまは、
美沙とひ

乃此段の心、
しとて、
よか、
乃り今、
六義乃事、
古今集、
美忠根、
乞師、
のあひ、
の心を、
難を、
よあ、

よからさうなまのあはれをいふに
宗祇の風は毎のこころに
風はあはれをいふに
あはれをいふに
とていふに
媚諛せよ
字と創声を守
とていふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに

よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに

五雅
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに
よからさうなまのあはれをいふに

云々

風月

...

六頌

神は... 公あ... 神の... 故も詩... 故切...

頌乃... 也... 猶... 三... 頌乃... 也... あり... みる... わ... 假名...

宗籍云苑花蔭雲と云ふて、
記一春秋乃ういりし、
とわすし、
雅頌の古事と云ふりて、
いと

品類、
とて、
なり、
色、
魚

發り

ち、
二、
り、
花、
り、
心、
一、
お

Handwritten text in a cursive script, likely a name or title.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text at the top of the left page, possibly a name or title.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

雪のふるはにものゝろはひうりか
の巻は雨粒千粒

ふれあくる花や春風さうりそん
長風桃李花在日

月影のけとさあはるるやうらん
上老の前日月影

あはれぬるのやうらんやうらん
あはれぬるのやうらんやうらん

あはれぬるのやうらんやうらん
あはれぬるのやうらんやうらん

あはれぬるのやうらんやうらん
あはれぬるのやうらんやうらん

立合ととぬるはたりのよろ細女命秋
舞成りくはるる乃まへしあはてたれも
日乃神そまひてさうひ世ふあはれぬる
春日日記古語拾をさうしたあり
世俗乃しとさうしとせしむ

又日々日記なりくをす乃故
くはるるやうらんやうらん

あはれぬるのやうらんやうらん
あはれぬるのやうらんやうらん

あはれぬるのやうらんやうらん
あはれぬるのやうらんやうらん

あはれぬるのやうらんやうらん
あはれぬるのやうらんやうらん

大木のころもあつた事あり

鳥巢ふち移ひつゝは落るれら成りけく

よくあるやふふやあせうとてか彼んが

とておそくおそくおそくおそくおそく

射作らあひあひあひあひあひあひあひ

とはちうひあひあひあひあひあひあひ

紅毛法眼ひくくくくくくくくくくくく

多くてもあつたの夜白小松成根さしてま

くろ物うねい白流中に杉林よら合ひをそ

花体常服ふくくくくくくくくくくくく

まの半さうふくくくくくくくくくくく

ひはくくくくくくくくくくくくくくく

又云中三は相付信乃人のくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

うのくは乃のりきこ
すりせし格れ波平うん
うけし杯をうらめし
うんのをしよむけうん
く文を乃の金波うん
うりそしうりく繩と
本すきうううの
じうい乃山よさう
くうううくうん
あそとあいら例もあつ
きく人のものあま

うのくは乃のりきこ
すりせし格れ波平うん
うけし杯をうらめし
うんのをしよむけうん
く文を乃の金波うん
うりそしうりく繩と
本すきうううの
じうい乃山よさう
くうううくうん
あそとあいら例もあつ
きく人のものあま

あはれはこころ

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account. The text is written on aged, stained paper. The characters are dark and somewhat faded in places. The lines are roughly horizontal but follow the curve of the page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. It appears to be a continuation of the list or account. The paper shows significant water damage and staining, particularly in the center and lower portions. The handwriting is consistent with the right page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, located on the right side of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or index, located on the left side of the page.

異形通刺の... 付... 連弁者

あ... の... ち... ち... ち... ち...

てんせつしをうとつれをさるる

古き多しの能詩

真 久き数多くかたむかひ

うきうりのあはれをいふ

草 一うきうきあはれ

あはれうらそひをいふ

新 まれまらぬあはれ

あはれは骨よりいふ

宗頼云くあはれいふ

あはれをいふあはれ

とけいといふ

有久乃の他をいふ

あはれはあはれ

有久也をいふ

あはれをいふ

あはれをいふ

あはれをいふ

あはれをいふ

文三

あはれをいふ

あはれをいふ

文三

あはれをいふ

首白乃毎... 能借

暇... 能借

歌... 能借

秋... 能借

又曲乃心... 能借

物... 能借

は白... 能借

人... 能借

丁

丁

けいこく... 曲... 序... 敬... 白... 流... 感... 送... あり... 一... と

序... 流... 敬... 白... 流... 感... 送... あり... 一... と

序... 流... 敬... 白... 流... 感... 送... あり... 一... と

うきもの物さひりり
くもよとくは海鏡目

正武

舟三有ん作

定むるをくんとおそくしてしをいひさう
ありてしるこもえん方ん体いお極よすへ

佛乃目とくくちま急乃世

物象作

りけいしんちんちん

ほいひら乃思ひくくも思ひあへん

之の作

くれさふあははれ思ひ

血は骨ざり色小迷ひせく思田博監

河世作

定むるをくんとおそくしてしをいひさう
ありてしるこもえん方ん体いお極よすへ

あま乃あまはる思ひあへん

思ひくく思ひくく思ひあへん

松氏作

前よりあまはる思ひあへん

松板とく思ひあへん思ひあへん

之の作

定むるをくんとおそくしてしをいひさう
ありてしるこもえん方ん体いお極よすへ

思ひくく思ひくく思ひあへん

あま乃あまはる思ひあへん

舟に懸作

方よりあまはる思ひあへん

思ひくく思ひくく思ひあへん

松氏作

格真体

あつたてのうたがた

道徳

花屏体

日本乃のたのしみ

大層のうたがた

君代とのうたがた

本体

あつたてのうたがた

あつたてのうたがた

休

あつたてのうたがた

あつたてのうたがた

あつたてのうたがた

才女可結体

あつたてのうたがた

素体

あつたてのうたがた

秀逸体

あつたてのうたがた

あつたてのうたがた

抜粋体

あつたてのうたがた

あつたてのうたがた

写本俵

白紙に墨で書かれた文字、縦書き。右端に「物乃ちこれいふことかたし」とある。

おれよちよちとていふことかたし

日く夜ふとちり乃竹は根とす

廿六面白俵

佛をよあられぬことこのむ

物業をいれおとちりちりちり 級心は牌

一頁俵

いふゆふ道人あらん 志とん

少きそなたん 志とん

道節

寫本俵

白紙に墨で書かれた文字、縦書き。中央に「身も分らぬことかたし」とある。

世の中いふことかたし

ちの尾あつていふことかたし

廿七懐俵

白紙に墨で書かれた文字、縦書き。右端に「いふことかたし」とある。

おれちり移すことかたし

古くは神様向りかたし

移すは神

廿八日俵

おれちり乃尾あつていふことかたし

おれちり乃尾あつていふことかたし

廿九日俵

おれちり乃尾あつていふことかたし

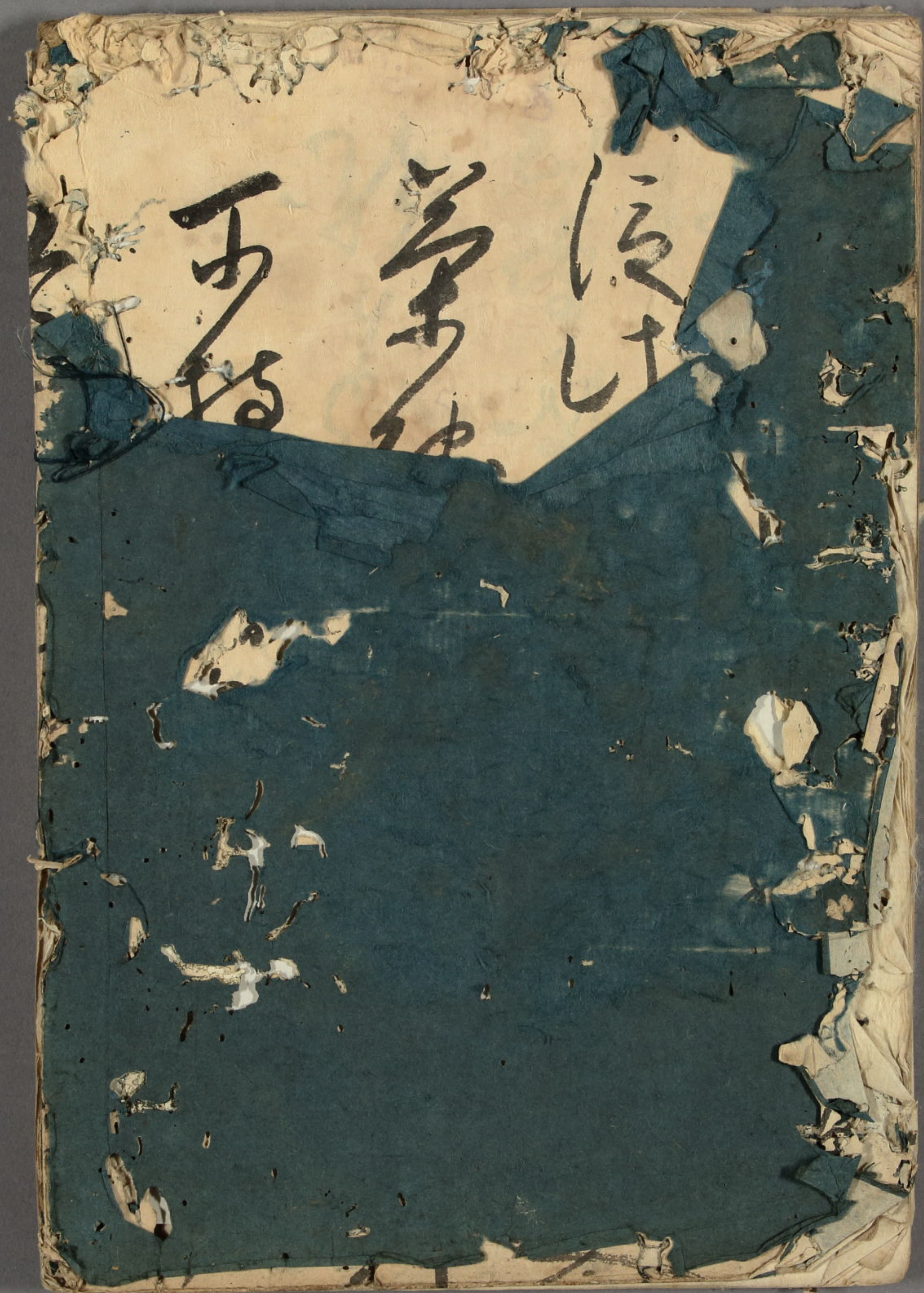
おれちり乃尾あつていふことかたし

延宝元癸丑年仲冬吉日
寺町二条上町
関板

丙申臘月初五日申候合
日土月十四日謹写之

延宝元癸丑年仲冬吉日

寺町二条上町
関板



復し

巻末

五拾